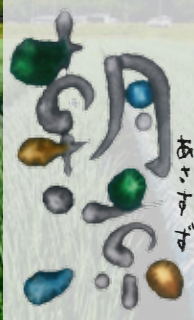


言葉で感じる季節



夏、朝のまだ暑くならない時間や、朝そのものの涼しさと呼ぶ言葉。

主に早朝になりますが、完全に陽が昇っていない、地が太陽の光で暑く照っていない時の空気感は「夏」だからこそ感じる良さ。

この早涼の時間もあるからこそ、

畑のねぎたちは暑い一日を乗り越えたり夏でも良い状態で育つことができます。

毎年、猛暑、酷暑はどど暑さの表現も増してゆきます。八月の京都の暑さもなんとかが乗り切りました。九月の残暑も油断せず、気を抜かないよう、ねぎたちも乗り越えたいですね。



夏のピークが終わり、グッと秋に近づく九月になりました。暑さも次第に和らぎ、陽が落ちていく夕刻は僅かな時間ですが空の色が綺麗で、夏を越えたご褒美だと楽しみにしています。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

今月の

ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

夏葱のお届けもラストスパートに入ります

美山・亀岡で6月、ちょうど梅雨の時期に定植したねぎです。

7月の長雨・日照不足、8月の日照り続きという過酷な環境を乗り越えてきました。

農人たちの思いとしては、まんべんなく晴れて、雨も降ってというのが理想ですが、自然相手だと難しいものです。

それでもなんとか収穫時期に間に合わせようと、追肥や灌水を行って、収穫の時まで大事に育てあげたねぎたち。

ツンと爽やかな風味の夏葱、ご賞味ください。



NO.160

2020年9月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信



雨量も異常に多く、風の強さも相まって倒伏してしまったねぎ畑

台風を免れた今年の8月

7月～8月は恐れていた台風が訪れませんでした。おかげ様で、ねぎが倒れることもなく、良い状態で収穫することができています。台風に関しては、台風での被害も「防災」と捉え、今年から新たな取り組みを行っていました。昨年までは、防風ネットなどで「圃場にあるねぎをどうやって台風から守るか」と考えていましたが、今年は台風が来る前に、圃場にあるねぎを収穫してしまおう！という取り組みを行っています。

そのためには、全員で収穫を行い配送するというのが必要になってきます。そこで頼りになるのが、4トン保冷車です。これ1台で約2トンの葱を運

ぶことができます。美山から収穫したねぎを加工場のある京都市内まで持って帰る際の移動に活躍。暑い中、1時間半もねぎを移動させる必要があるの、品質維持に役立っています。そんな大事な4トン保冷車が先日故障してしまいました。トラックも、ねぎをお届けするのに欠かせない農人たちの相棒。本調子になってもらい夏を乗り越えます。



畑のすぐ横に保冷車をつけて、収穫したての状態ですぐ冷やしより良い品質を保っています。

故障してしまったトラックを、農人馬力で押し出しています。なかなか大変でした。汗